令和6年能登半島地震

穴水町での支援から今思うこと

配慮が必要な方への災害時のボランティア活動について



認定NPO法人レスキューストックヤード 常務理事 浦野愛

令和6年能登半島地震

- ①発生日時 令和6年1月1日16:10
- ②震源及び規模(暫定値)
- 〇場所:石川県能登地方(北緯37.5度、東経137.3度)
- ○規模:マグニチュード7.6(暫定値)
- 〇震源の深さ:16km(暫定値)
- ③各地の震度(震度5強以上)
- 〇石川県 震度7 志賀町 震度6強 七尾市、輪島市、 珠洲市、穴水町 震度6弱 中能登町、能登町 震度5 強 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、 宝達志水町
- 〇新潟県 震度6弱 長岡市 震度5強 新潟中央区、新潟南区、新潟西区、新潟西浦区、三条市、柏崎市、見附市、燕市、糸魚川市、妙高市、上越市、佐渡市、南魚沼市、阿賀町、刈羽村
- 〇富山県 震度5強 富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、 南砺市、射水市、舟橋村
- 〇福井県 震度5強 あわら市

地震活動の状況

〇1月1日16:06の最大震度5強の地震以降、1月17日06 時00分現在、震度1以上を観測した地震が1431回(震度 7:1回、震度6強:0回、震度6弱:1回、震度5強:7回、震 度5弱:8回、震度4:41回、震度3:152回、震度2:380回、 震度1:841回)

■調査で判明した津波の最大の浸水高

<珠洲市>▼三崎町4.7m▼川浦町・折戸町・宝立町

4.3m▼飯田町3.7m▼蛸島町m

<能登町>▼布浦·松波地区3.2m

<輪島市>▼琴ヶ浜地区2.3m▼門前町黒島から北浸水痕なし

<志賀町>▼赤崎・鹿頭地区5.1m

(※数値は潮位補正前の速報値で今後変更となる場合もあります) 【京都大学防災研究所】

令和6年1月17日9:00現在/非常災害対策本部(政府)

穴水町の被害と特徴

- ●人口:7,890人(3,288世帯)
- ※令和2年現在、現在は7,400人(3,200世帯)まで減少
- ●高齢化率:約50%
- ●大きく穴水、住吉、兜、諸橋の4地区に 分かれる
- ●最大震度6強、甲地区近辺で津波の被害あり
- ●死者20名
- ●全壊、半壊、一部破損 3771棟
- ●断水世帯:およそ1200戸
- ●停電世帯:30戸
- ●避難所数:22カ所(約860人が避難、行 政職員の配置のない自主避難所あり)
- ●開設中の福祉避難所:1か所、デイサービス事業所は町内3カ所全て停止中
- ●1月10日より穴水町社協による災害ボランティアセンター開設



穴水町とRSYのつながり

- ●2007年能登半島地震でも震度6強。災害VCの運営をサポート
- ●その後穴水町社協がRSY の会員に
- ●以降、RSYが支援する被災地に社協・ボラ連が同行。 体験談の伝授や募金、手作り応援グッズなどまごころー 杯の支援を届けて下さり、 交流が深まっている。



指定避難所「プルート」 300人入居の避難所の対応からスタート



トイレの改善













トイレ・手洗い場を後付けすることも可能







食事の改善



避難所の食事の課題は本当に深刻



災害時にあらわれやすい食事状況



東日本大震災のある市の過難所 (69度超) の食料不足状況 出典: Tsuboyama-Kasaoka N, et al. Asia Pac J Clin Nutr 2014;23:159-66.

- ●あのお弁当を毎日食べるのは辛いけ ど、かといって食費の全てを自己負担す るのはしんどい。
- ●このお弁当を見て、俺たちのことをこの ままでも大丈夫とは決して思わないはず。 一緒に一カ月食べてみたらわかる。
- ●避難所に来てから、食べて寝ての生活で、しかも揚げ物ばかりでお相撲さんみたく太った。服はLから3Lに。
- ●いつも同じようなメニューで見てるだけで嫌になる。もう口にしたくない。いつも家で食べてた食事がしたい。
- ●飽きてしまったなんて言いづらい。食事を用意してくれるだけでもありがたいと 思ってる。ぜいたくは言わないから、せめ てみそ汁の炊き出しだけでも来て欲しい なぁ。

食事内容の改善、外部支援者の応援は必須

1月27日より「セントラルキッチン」 (仮設給食センター)スタート

(3)炊き出しその他による食品の給与

	一 般 基 準	備考
対 象 者	避難所に避難している者、住家に被害を受け、 又は災害により現に炊事のできない者	
費用の限度額	1人1日当たり 1,230円 以内	1人平均かつ3食でという意味である
救 助 期 間	災害発生の日から <u>7日</u> 以内	
対象経費	主食費、副食費、燃料費、炊飯器・鍋等の使 用謝金又は借上費、消耗器材費、雑費	

- ※ 下線部は特別基準の設定が可能なもの。
- 町から飲食店業者へ委託委託先:①穴水町飲食店組合②県外飲食店
- ・メニューは町管理栄養士が作成
- ・食材は町内スーパーから購入
- ・調理人、デリバリードライバーは失業中の町民を雇用
- •2か所で毎夕食600~800食提供

費用は全て「国費」でまかなっている



寝床の改善

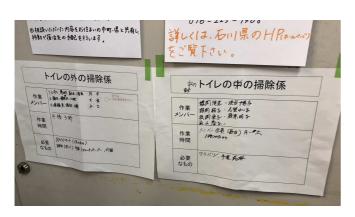








避難所運営への避難者の参加









要配慮者への対応



感染症、認知症、肢体不自由、全盲 統合失調症、ダウン症、自閉症など 介護・介助が必要な方が多数入居



福祉避難スペースの改善









(作業系ボラ)

- ・家財道具の運び出し
- ・家屋内の清掃
- ・ブロック塀や屋根瓦の撤去
- ・災害廃棄物の回収、仮置き場までの 運搬
- 軽トラックの貸出し

(生活支援系ボラ)

- ・被害写真の撮影と印刷
- 避難所の巡回、食事・物資提供
- ・在宅避難者の個別訪問
- ・生活再建を関する相談会
- 炊き出しのマッチング
- 病院への送迎 など











足湯・個別訪問のつぶやきから読みとく 被災者の声

足湯ボランティア









被災者の声(人間関係) 「噂話や小競り合いが増えた」

- ●避難所生活も1か月半。 噂話や小競り合いなどが増 えギクシャクした雰囲気。
- ●就寝中ふと目が覚めたら すぐそばで男性が立ってい てびっくりした。
- ●パーティションが欲しいと 思っても「今更そんなもの必 要なのか?」と言われて要 望しにくい。

(30代•女性)



被災者の声(ジェンダー) 「女性ものの物資が欲しいと言えなかった」

- ●乳幼児と避難。
- ●避難所にはお年寄り向け のモノや子ども用品などは あったけど、私の年齢にあ う下着や着るものがない。
- ●物資のことは男性が窓口になることが多くてサニタリーショーツや自分のサイズのブラが欲しいなんて言えなかった。

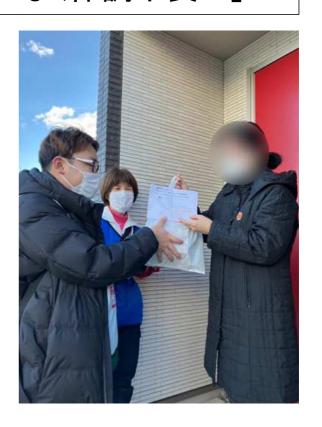
(30代•女性)



被災者の声(健康) 「アレルギー除去食がなく体調不良に」

- ●自宅は一部損壊。子どもが食物アレルギーがあって症状がひどい。自衛隊の炊き出しはレトルトや缶詰が多いので食べられない。
- ●こんな時のための自助努力として、アレルギー用の食材は用意していたが底をついた。特殊食料なので一般スーパーでは購入できず物流が止まったので通販でも購入できなかった。
- ●無理して食べて体調が悪化。対応食をどこかにもらいに行きたかったけど、以前「普段きれいにしすぎ」「気にしすぎ」「過保護」などと言われたことがあり、要望は言い出しにくかった。
- ●小中高でもアレルギーの子はいるはず。今どう対処しているか非常に気にかかる。うちばかり申し訳ない。

(40代•女性)



被災者の声(心的ストレス・不安) 「眠れない」

- ●町営住宅4棟のうち、自分の棟以外は損害。車の屋根に穴が空いてブルーシートをかけてきた。
- ●夜寝られない。医者から 薬もらって寝れるけど昨夜 は1錠多くのんでしまった。
- ●この3日間ぐらい食欲がない。味噌汁は飲めている。 気分が沈んでいる。

(80代•男性)





被災者の声(老々介護の限界) 「妻の認知症が進行、傍から離れない」

- ●地震が起きてから5歳も歳を 取った気がする。避難所が閉所 になり寂しさと不安が募る。
- ●妻が認知症だから何をするに も1人にできない。自分の指示を 妻がどこまで理解しているのか…。
- ●町のデイサービスは営業停止 で災害の目途も立っていない。 夜は2時間ぐっと寝て目が覚めて の繰り返し。ゆっくりできるのは その2時間だけ。

(80代•男性)



被災者の声(心的ストレス・不安) 「赤紙でどこからも支援が受けられない」

- ●社協さんに電話したら、「赤の家には入れないから」と言われて終わった。
- ●確かに危ないのわかるけど、 黄色や緑色の家は片付いて 行くのに、赤は何もできない。
- ●家は壊して建て替える予定。 それでも大事なものは残した いから運びたいけど、男手が ないからね。今はおじいちゃ んがやってくれているけど、お じいちゃんもかわいそうで。

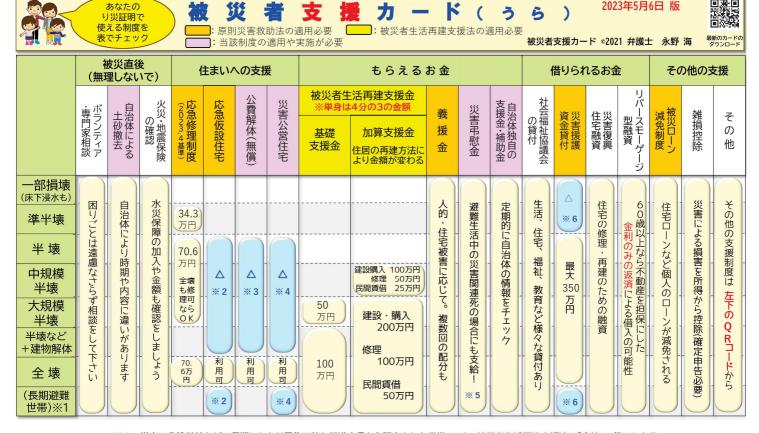
(50代•女性)



被災者の声(心的ストレス・不安) 「何から手を付ければいいのか分からない」

- ●隣の家が傾いて自宅に倒 れてきている。相談しても誰も 来ない。
- ●応急危険度判定・黄色。生 活家電(冷蔵庫・テレビ・洗濯 機・レンジなど) ほとんど壊れ て使えないので、避難所に来 てかりている。
- ●買い換えたいが年金生活。 罹災証明のことを聞いたら、 手続きはやったが、それがい つ効力を発揮するのか・・。待 つしかないのか。 (70代-男性)







災害の危険継続などで長期にわたり居住不能と都道府県から認定された世帯のこと。<mark>被災者生活再建支援法で「全壊</mark>」の扱いになる。

大規模な災害では、半壊、大規模半壊の方や、二次災害の危険、ライフライン停止などで自宅からの長期避難が必要な方の入居可能性もある。 特定非常災害などでは、半壊以上の方も公費解体の対象になることがあるが、修理して住むという選択肢も<mark>慎重に検討</mark>を。 **※ 2**

× 3

大規模な災害では、全壊だけでなく、<mark>半壊以上の方などが入居できる場合</mark>も。入居には収入条件があり、家賃は必要。 生計維持者の死亡で500万円、その他の方の死亡で250万円。重度障害の場合には、左のそれぞれ半額の支給。 **※4 %** 5

% 6 世帯主の1か月以上の負傷、家財の3分の1の損害(浸水被害も)でもそれぞれ150万円まで借入れ可。



被災地にボランティア派遣が難航した理由

- 1. とにかく道路事情が悪い
- 他の災害と違って半島なので南からしか入れない
- 山の被害なので土砂災害等が多く発生し、通行止め箇所多数。中抜けできる 道もない。
- 2. 渋滞
- 緊急車両が優先的に入り、それでも渋滞。
- 一般のボランティアを入れることがさらなる渋滞を引き起こす。
- 3. 宿泊先の確保
- 泊まるところがない。
- 4. 通信
- 通信が4者とも使えない、給油できない、電気ガス水道全てダメ

※ただし炊き出し、避難所運営、屋根のブルーシート張り、重機等専門的な技術があり、長期滞在、食う・寝る・出すが自己完結できるNPO等が独自で100団体以上現地入りしている。

看護・リハ・福祉の専門職チーム 個別支援







避難所(車中泊を含む)

寝床・トイレ等の環境改善、足湯・ サロン開催等

※救助法による支援(布団・生活物資・ 風呂・調理・洗濯等)の活用が必要

食と栄養

栄養バランス・温食を考慮した炊き出し等

※救助法による支援との重複回避·全 国からの支援調整·受益者バランスが 必要(要調整担当)

在宅避難者

個別訪問・困りごと・ニーズ調査・ サロン開催等

※救助法・生活再建支援法等の小地域 での説明会・各種手続き支援・関係者 へのつなぎが必要































- 連携団体/なごや災害ボランティア連絡会・藤田医科大学・JWCO・オーガニックコネクションズ・とちぎボランティアネットワーク・静岡県ボランティア協会・石川県司法書士会ほか
- □ 穴水町・穴水町社協・NPO(RSY)との定期協議:1月16日より毎週火曜日17:00~@穴水町役場

29